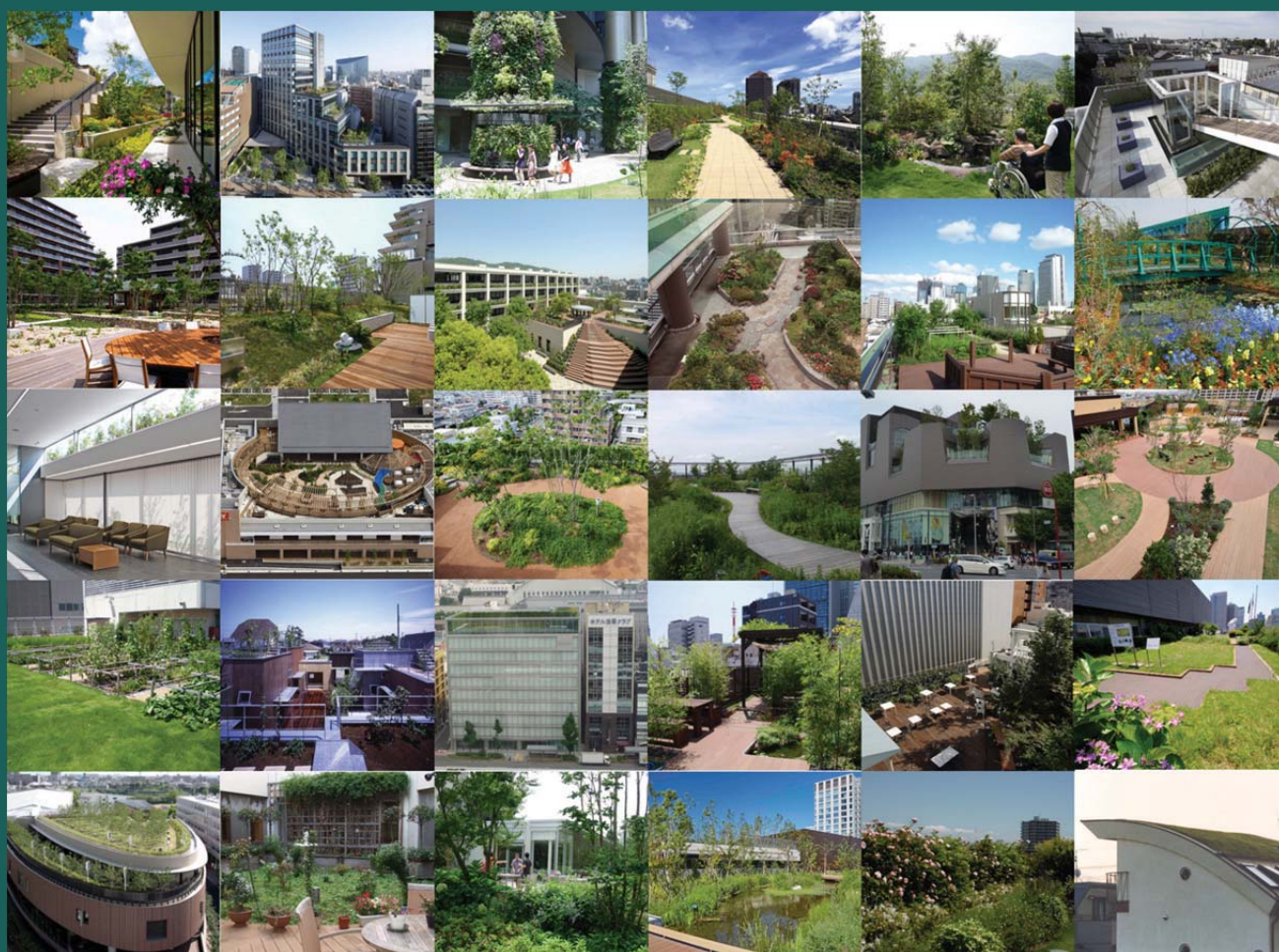


緑による 建物の 魅力アップガイド



本ガイドブックのねらい

屋上や壁面の緑化など、緑と建物をうまく組み合わせることにより、その建物をより魅力的にし、大きな価値を付け加えることができます。本ガイドブックは、建物のオーナーや都市開発に携わった人たちに、緑は建物の魅力を高め、ビジネスに大いに活かせることをお伝えするために作りました。

本ガイドブックでは、緑をうまく活かしている建物を成功事例として取り上げ、その建物のオーナーや開発担当者などに対する取材をもとに、緑化によって生じるメリット（建物の緑化をすすめる7つのワケ）、うまく緑を活かしている建物に見られる共通事項（魅力的な緑化を成功させる5つのヒミツ）を紹介しています。

事例紹介では、なぜ緑化することを決めたのか、どうビジネスに結びついたのか、いかに利用者に喜ばれているのかなどについて、建物のオーナーや都市開発に携わる人達の考えを紹介しています。

あなたの建物が緑を活かした魅力的なものとなり、よりよい暮らしやビジネスにつながる一助となれば幸いです。

緑による建物の魅力アップガイド

目 次

建物を緑化するワケとヒミツ

1 魅力的な緑化にはヒミツがあった 1

- 1. あなたに、建物の緑化をすすめる7つのワケ 2
- 2. 魅力的な緑化を成功させる5つのヒミツ 5

成功事例で具体的にみる

2 建物の用途別 緑の活かし方 7

- 1. 住・すまう—住宅／集合住宅 8
- 2. 商・あきなう—商業施設／娯楽施設 14
- 3. 勤・はたらく—事務所ビル 21
- 4. 療・いやす—医療施設／福祉施設 27
- 5. 学・まなぶ—教育施設 32

もう少しあります

3 建物における緑のはたらき 37

- 1. 外資系企業の関心の高さ 37
- 2. 「食」とのむすびつき 39
- 3. 屋上森林セラピー効果の検証 42

こんなウンチク、いかがでしょう

4 建物緑化の豆知識 44

5 参考資料 47

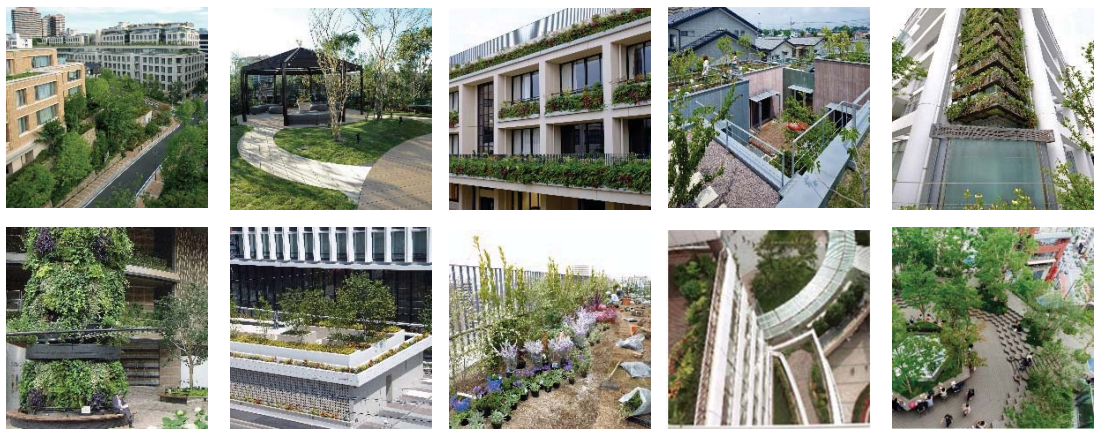
1

建物を緑化するワケとヒミツ 魅力的な緑化にはヒミツがあった

魅力的な緑化にはヒミツがある

緑をうまく活かしている建物のオーナーや開発担当者などへのヒアリングから、魅力的な緑化にはいくつかのヒミツがあることがわかりました。緑を活用することによって得られるさまざまなメリットと、緑をうまく活用するためのヒントが、そこには隠されていたのです。

これらを「建物の緑化をすすめるワケ」と「魅力的な緑化を成功させるヒミツ」としてお伝えします。建設の内容や方向性の判断を下せる立場のあなたに、あるいは開発を担当する部署のあなたに、知っていただきたいことばかりです。新たに建物を建てる時、あるいは、今ある建物をリニューアルするとき、きっと役に立つでしょう。あなたの建物が緑を活かした魅力にあふれたものとなり、ビジネスや日々の暮らしに役立つものとなるに違いありません。





1. あなたに、建物の緑化をすすめる7つのワケ

ワケ1 不動産の短期的・長期的な価値の向上 ビジネス競争力が高まります

テナントビルでは、緑に面した部屋や区画から入居が決まっていくと言われています。緑は、他の建物との差別化に役立ち、競争力、集客力を高めることができるので、不動産としての短期的価値の向上に結びつきます。

建物は、年月が経つにつれ残念ながら不動産価値が低下してしましますが、緑は適切な管理を行うことにより価値が上昇していきます。建物の単なる飾りではない付加価値として、長期的に見た不動産価値の低下を抑制できるのです。スクラップ・アンド・ビルドではなく、長期的視野に立った不動産ビジネスが望まれる時代に競争力を高めていくためには、緑化が一つの選択肢となります。

ワケ2 新たな商空間の創出 ビジネスチャンスが生まれます、 集客力も発揮します

飲食系店舗のおしゃれな屋外テラスとして、あるいは商業施設内のレクリエーションやイベントなどの場として、緑化空間が利用されています。屋内とは一味異なる空間が付け加わることで、緑化空間だけでなく、屋内部分も含めて活性化されています。

地域に不足している子どもの遊び空間を整備したり、農業体験が可能な屋上菜園を設けたりすることで、施設の魅力化を図るケースも見られます。さらに、屋上に見える樹木の物珍しさで街ゆく人を上層階に誘引し、そこから下層階へ利用客が降りるシャワー効果を狙った施設もあります。

ワケ3

企業や組織の社会的評価の向上

企業や組織の評判も大切です

建物の緑化は景観や自然環境に対する配慮の象徴であり、また、企業や組織がその社会的責任を果たしていることを社会に示すものとなっています。これは企業の価値や評価の向上へとつながることから、イメージアップやPRのためにも大切にされています。

建物の緑化には費用がかかるため、本来の商業活動や企業活動にはそぐわないと思うかも知れません。しかし、企業が社会の中でどう評価されるのか、長期的、大局的に見て、緑化に取り組むことも大切です。

ワケ4

労働環境や学習環境の改善

労働意欲も学習意欲も創造力も、刺激します

工夫を凝らした緑化空間は、オフィスや店舗、学校、その他の施設で一日を過ごす人々にとって、よい休息と気分転換の場所となります。「普段忙しすぎて気分転換に外に出ている暇もない」とおっしゃる方も多いでしょう。勤務している建物に緑化空間を確保できれば、ちょっとした時間にリフレッシュできます。よい休息は仕事の効率につながります。そこがすてきな緑化空間なら、従業員が職場に愛着心を持つことができ、仕事に前向きに取り組んでくれることでしょう。

テナントの従業員や福祉施設の介護スタッフの気分転換のために屋上を庭園化した例や、執務スペースと緑化空間が隣接していて、屋外でも仕事ができるという例もありました。緑化空間での型にはまらない就業スタイルが創造力を刺激したり、作業効率を高めていたりするのかもしれない。

ワケ5

施設の差別化・特別化

他とは違う、特徴ある施設づくりが可能です

緑は他の施設に差をつける強力なツールです。

たとえば、学校の屋上緑化。学生の休憩空間であったり、ビオトープでの自然観察や学習の場であったり、あるいは学校菜園での農業体験ができたり、いろいろな使い方ができ、とても魅力的です。もしかするともっと魅力的なのは、入学希望者やその父母の関心が高く、入学に向けた学校見学で人気があったり、学校のパンフレットにシンボル空間として写真が掲載できることかもしれません。

たとえば、医療や介護施設の屋上緑化。入院中の患者さんの心を安らげる緑の空間であったり、散歩や体を動かすことのできるリハビリ空間であったり、あるいは、園芸療法の実践の場となります。病院スタッフの知識と経験をもとに、その施設ならではの屋上緑化空間が整備されているようです。

環境対応と建物保護

ワケ6

ランニングコストを節約しつつ、 社会にも貢献します

屋上緑化や壁面緑化は、植栽と植栽基盤が太陽光を遮り、断熱効果をもたらして、植物の蒸散作用と合わせて、建物の熱環境の改善に役立ちます。冷暖房効率が向上するため、電気代等を節約することができます。また、被覆することで建物の保護にも役立ちます。

ヒートアイランド現象の緩和に役立ち、都市の熱環境の改善に寄与します。雨水を一時的に貯留して下水道への流入を遅らせ、水害を防ぐことにも役立っています。あなたが緑化を行う第一の目的ではないでしょうが、結果的に地域の環境改善にも大いに貢献します。それは、素晴らしいことです。

コミュニケーションのきっかけ

ワケ7

暮らしやすさ、居心地のよさが うまれます

緑を取り入れることにより、話題性が生まれ、そこに住む人や利用する人、あるいは近所の人を巻き込んだコミュニケーションが生まれます。屋上の菜園や果樹園で育てたものをお裾分したりすることにより、ご近所づきあいなどの交流も始まるようです。マンションなどでは、緑の管理を通じて、住民どうしのコミュニケーションが生まれるという声もありました。

緑は、コミュニティ形成へ結びつき、快適な暮らしにつながることで期待されるため、住む人や利用者の評価も高まるのです。

ワケ番外編 緑化を義務付ける制度への対応

開発に伴い、法的規制や行政の指導に基づいて、屋上や壁面の緑化を含む敷地内の緑化が求められる場合があります。

どうせ緑化しなくてはならないのであれば、他の施設や物件との差別化を図る絶好のチャンスとして、求められる基準以上の緑化をする、あるいは、売り物とできる形で緑化をする、これも一つの戦略でしょう。

自治体によっては補助金の支給が行われることもありますので、緑化担当部局等にお問い合わせ下さい。



2. 魅力的な緑化を成功させる5つのヒミツ

ヒミツ1

熱意とぶれない方針

緑化は、だれが、どう決める？

建物の緑化を決定するのは、オーナーや施主からのトップダウンでも、プロジェクト担当者やエンドユーザーから要望としてあげていくボトムアップでも、どちらでも問題ありません。専門知識の有無も問わないようです。ただし、熱意や思いは、重要かつ不可欠です。それが、プロジェクト全体を引っ張っていく力となっています。

何の目的で、どのような緑化を行い、どう利用して、維持していこうとするのか。計画当初の思いを忘れることなく、しっかり先を見据えて、決してブレずに、できあがりの姿やそこを利用することを楽しみにしながら、緑化を進めることが大切です。

ヒミツ2

建物機能の向上に結びつく緑化内容

建物や屋内空間がどう使われているかに配慮する

緑化は、建物の機能や役割を強化したり、補完したりするような計画とすることが重要です。屋内空間とどのように機能分担するのか、あるいはどのように連続して利用されるのか、屋内空間では得られない特別な場や機会が提供できるのか、これらを明確にしておくことが大切です。

漫然と緑化しただけでは、空間は活性化しないし、屋内側も恩恵にあずかることができません。うまく緑化しないと、来客数やリピーターの増加に結びつかないと、商業施設でよく聞きます。

ヒミツ3

施工から維持管理までの継続性

だれが維持管理するのが望ましい？

緑化は竣工時には完成せず、その後の維持管理があって初めて完成するといわれます。維持管理の大切さは多くの物件で聞くことができました。世話をする手間は掛かりますが、緑化空間の価値を高めることにつながります。

設計や施工の意図を汲んだ適切な維持管理を続けるために、施工者に維持管理も行ってもらう例は多くありますが、そのほかにも、維持管理の予定者に緑化の計画設計時から参加してもらったり、竣工後に設計者・施工者・維持管理者などの関係者一同が集まって、現場の見回りや具体的な維持管理作業について検討を行っている例もありました。住んでいる人が主体的に関わって、自らの手で維持管理している例もあり、大変充実した活動になっているようです。

一般的に、植栽した樹木には枯れ保証が付いており、枯死した場合などは同等の植栽に植え替えてもらえるため、その点からも施工者と維持管理者が同一であると便利です。

ヒミツ4

無理をしない緑化

植栽とは、息切れしないように長い付き合いを

前述のように、維持管理は重要であるため、継続していかなければなりません。そのため手間や維持管理に必要な費用を考慮して建設する必要があります。建設時は、少しでも良いものをとコストをかけたくなるかもしれませんが、維持管理に費用がかかる場合があるので、少し冷静に考える必要があります。特に、分譲マンションなどは、所有が移り、維持管理に関しては管理組合の判断になりますので、建設当時の想定通りにはならないかもしれません。

植栽とは10年、20年という長い付き合いになりますので、息切れしないように、肩に力を入れすぎないことが肝心といえるでしょう。

ヒミツ5

仕組として位置づけ、組み込む

緑化を施設の機能や役割と密接に関連させておく

土地も建物も、緑も長く残ります。しかし、緑化を行った担当者や関係者は往々にして数年で代わり、所有者でさえもいずれは代わっていきます。計画時や施工時の思いが伝えられ、当初予定した維持管理が継続されて緑化空間が保たれていけばよいのですが、必ずしも期待できることではありません。どんなに魅力的な空間を創出しても、維持管理が不適切であれば、魅力が色あせることは前述の通りです。

人が代わっても、取り巻く状況が変わっても、緑化空間が維持されていく仕組みがあることが望ましいようです。そのために、緑化空間を共用のレクリエーションスペースとするなど、建物機能と関連させて維持せざるを得ないようにしたり、管理費が圧縮されないよう作業に関する比較見積や記録を公開するなど、経費的にも無駄をしていないことを示せるようにするなどの対策を取っていると、聞くことができました。

2

成功事例で具体的に見る 建物の用途別 緑の活かし方

緑が活かされた魅力的な建物の例を見ていただきましょう。

住宅・集合住宅、商業、事務所、医療福祉、学習教育のジャンルに分け、次ページ以降で紹介します。

住

すまう

季節感にあふれたライフスタイルの提案、コミュニティ形成に一役買っている緑化空間、シンボルとなる緑のある住宅・集合住宅の紹介です。

商

あきなう

緑が屋上やテラスなどの空間を多様化することにより、人が集まり、リピーターを作りだし、商業機会を増大させている商業施設の紹介です。

勤

はたらく

屋上を執務空間として活用するなど、従来の勤務の仕方にこだわらない多様な働き方、従業員の憩いの場となる緑化空間により企業イメージを向上させているような事務所ビルの紹介です。

療

いやす

緑化空間がリハビリに活かされている例や、利用者スタッフを癒す緑にあふれた施設など、緑を積極的に医療等に取り入れようとする医療福祉施設の紹介です。

学

まなぶ

勉学の間となるビオトープ、児童生徒に加えて父母も作業に加わる人気の農園、休憩休息の場が緑化によって生み出されている学校などの紹介です。

こもれびあふれる屋上庭園が、 コミュニティ形成のきっかけに

The Center Tokyo オーバルガーデン



屋上と思わせないような場所を目指し、植え方を工夫して、中高木を豊富に。

オーバルガーデンは、都心に立地するタワーマンションの駐車場棟の屋上に整備された、居住者専用の屋上庭園です。キッズガーデンとパーティーガーデンから構成され、ガーデン内に設置されたクラブハウスや屋内の共用部とも緩やかにつながり、住民同士のコミュニティ育成の重要な場となっています。クラブハウスには、キッズルームとキッチンスタジオが設置され、屋外へのアクセスや室内からの眺めに配慮した設計がなされています。

キッズガーデンは、芝生広場や砂場などからなるこどもの遊び場が設けられ、クリスマスツリー用のウラジロモミノキやこどもの日用のカシワなど、行事で使用する樹木も植えられています。一方、屋外調理用のかまどやシンク、テーブルやイスもあり食材となるハーブも植栽しているのがパーティーガー



こもれびが心地よい。



利用者の姿が絶えず、キッズガーデンで遊ぶ子どもたちも楽しそう。

デンで、居住者のライフスタイルに合わせた利用が可能です。

建物は経年で劣化しますが、緑はそうではありません。手入れは必要ですが、その入れた手は緑の価値に変わり、年月を経て大きな価値へと育ちます。

維持管理は施工した企業に委託してうまくいっていますが、理想は住民参加型かもしれません。土いじり、園芸、畑仕事は、こどもにもお年寄りにも人気ですから。植栽管理が人と人を結びつけ、手入れされた植栽がまた人を引きつけます。そして、マンションへの愛着が生まれ、コミュニティづくりに役立つでしょう。

「作って、売って、終わり」では、もう生き残れません。そういう時代です。（開発担当者談）

立地条件を逆手にとったマンション開発 ——屋上や敷地内の緑が差別化に一役

深大寺レジデンス武蔵野テラス



駐車場の建物の屋上を庭園にして、人々が多用途に使えるテーブルと椅子を配置。



緑を見るだけでなく、使えるようにすることで、場が活性化する。

都心部や湾岸部のタワーマンションとは違う魅力をもたせようと考え、「武蔵野の森の再生」をキャッチフレーズに、緑あふれるマンションを作ることになりました。マンションができて、逆に緑が増えたというぐらいを目指したのです。

駅からバスというアクセスも、それが不便というよりも、むしろ「世界を切り替える」のにちょうどよいと考えました。駅からの距離でマンションが評価されがちですが、本マンションは緑化により都心部のマンションなどとは異なる価値観を追求したわけです。建物本体は経年で劣化していきますが、緑は逆に年を追うごとにマンションの価値を高めることに貢献できると考えました。

マンション全体として緑化に力を入れたのですが、特に駐車場建物は味気ない建造物になりがちと

考え、その屋上を緑化しました。合わせて休憩施設なども整備しましたが、凝った施設は必ずしも必要ではなく、よく利用されるのは、日常使いできるもの、多用途のものであるように感じます。

マンション内の緑地や樹木を、周辺の人々も地域のシンボルと見てくれるようになれば、マンション住民も誇らしいし、うれしいですね。

緑の多さをご理解いただいて購入されていると思いますが、維持管理や運営に関しては、入居されている方の間でも温度差があると思います。過剰な負担感を持たれる方が多いと続きにくいと思いますので、そのあたりを見極める必要はありそうです。

なお、植栽の維持管理については、本マンションの植栽工事施工会社に引き続きお願いし、うまくいっています。
(開発担当者談)

建築デザインに取り込まれた壁面緑化 ——住む人のための緑の屋上も

TMI ビル



建物の角の壁面が緑化され、目立つ。



屋上も緑の見せ方を工夫



金属製の植栽コンテナ（屋内より見る）



植栽コンテナがルーバーのようになれば、日よけとなっている。

最寄り駅方向から見える面に、壁面緑化によるデザインを取り入れています。テナントに人を呼ぶための仕掛けとして、緑をシンボリックに活用しているのです。建物内部から見れば、それは緑のカーテンとなり、人の視線や日の光を適度に遮ってくれて、快適性を高めています。

建物は、地階から2階までテナントが入り、その上層階に賃貸住宅とオーナーの個人邸が入っています。緑を取り入れたデザインは私どもからの提案でしたが、オーナーも植木が好きで、敷地にもともとあった植木は一部残されて外構植栽に活かされてい

ます。

壁面の植栽は、網目状の金属を使い、建物形状に合わせて作った植栽コンテナを、建物外壁に取り付けて、植え込みました。植物の種類やその場の環境によって育ちの悪いものが出てくるリスクも考慮して、植栽は16種類の地被植物の混植としてあります。また、メンテナンス性によく配慮した計画ともなっています。維持管理作業時は、通常のはしご利用でよく、高所作業車等を使用せずに済みます。

なお、屋上庭園も整備されていて、住民に利用されています。（設計担当者談）

屋上に住人のためのリフレッシュ空間 ——快適性を安全安心とともに

プラウド大井ゼームス坂



「そよ風のガーデン」。そよ風を感じ、眺望も楽しみながら、ベンチに腰かけたり寝そべったり。



「風を感じるガーデン」。風が通り抜ける棟と棟の間に、四季の緑にふれる憩いの空間。



緑豊かなエントランス周辺。

デベロッパーとして、また商品ブランドとして、緑化計画はとても重要だと考えます。集合住宅やまちづくりの観点から、緑化計画は商品を構成する重要な要素の一つでもあります。購入を検討している顧客にとっても関心度がかなり高く、優れた緑化計画は顧客からも評価されます。

そのため、各プロジェクトにふさわしい緑化を考えることが大切ですが、プロジェクト担当者の緑に対する強い思い入れがなければ、優れた緑化計画を持った商品はできあがらないと実感しています。

本プロジェクトは接道条件が厳しく、敷地にかなりの高低差があるため、接地面における緑地のほかに屋上緑化が必要となりました。屋上には、通常で

はセダムなどの緑地帯を設置することが多いのですが、本プロジェクトは住人が利用できるスペースとして、計画しました。

緑地は、作ったらおしまい、ではありません。住人が将来継続して利用できるような、さまざまな仕掛けを用意しており、マンション管理費の中からも費用をいただいています。

緑化やその維持管理に伴うリスクや懸念があるかもしれませんが、今は工夫されたいろいろな技術や製品もあります。信頼できる造園会社や建設会社とよく相談、協議し、設計や施工の段階から、どのような緑化とするかの問題意識をもって対応することが重要ではないでしょうか。（開発担当者談）

草屋根に上がると季節を実感できます ——自然とともに暮らすライフスタイルを実現

御影草屋根の家



カーブを描いた屋根に土留め金物を置き、10cmほどの土を敷いている。播いたコスモスの種からは、やがて花が咲いた。今は一部を畑とし、野菜や果物を育てている。右下は、家の前面。

自分が建築士ということもあり、屋根の緑化にはもともと興味があったので、まずは自宅兼事務所の建築時に試してみました。屋根に土を敷き、芝や草で覆った草屋根です。当初の目的だった断熱効果は、驚くほど。専門家に測定していただいたところ、真夏の屋根からの侵入熱量は通常の屋根の 1/22 程度に抑えられていました。

住んでみて、何よりも素晴らしいと感じているのは、自然とともに暮らしていると実感できることです。自然の営みが間近に感じられるのです。屋根に上がると、四季の移り変わりを感じることができるのが、草屋根の楽しみでしょう。季節のよい時期には、屋根に出たくなります。また、屋根からは地域を見渡せるので、地域に対する愛着が深まることがわかりました。

木造建築ですが、土壌厚が 10cm 程度ならば、室

内を柱や壁ばかりにしてしまう心配はありません。心配していた雨漏りもありません。草屋根の維持管理は自然任せでよいと考えていますが、他の植物を追いやって繁茂する植物はコントロールする必要があります。自分達で除去しています。

草屋根は、通常の屋根と比べて手間も費用も掛かるのは事実ですが、それに価値を見いだせる人には、かけがえのないものです。設計者として自ら薦めることはしていませんが、この家を見て希望されるクライアントは多いです。

実は私は、阪神淡路大震災の経験者です。多くの建築物が処分の困るゴミと化したことにショックを覚えました。それが、自然に戻る素材での建築を志向することとなったきっかけです。草屋根は、自然の力を活かすことができる建築として、可能性を感じています。
(設計者／オーナー談)

セルフビルド・セルフメンテの屋上果樹園 ——家族や近隣とのコミュニケーションを生む空間に

Sg/Secret Garden

戸建て住宅の平屋部分の屋根上を緑化して、第二の大地を作り、果樹を中心に植えています。防水までは業者施工ですが、それ以降は施主さんが作られましたので、経費が節約できています。施主さんのご両親が農業・造園業を営んでおられた経験があり、力をお借りできたのも大きいです。その後、ご両親には果樹やその他植栽の手入れなどもお手伝いしていただいています。

果樹を植えたのは、ここがコミュニケーションを生むための場所と考えたからです。果樹のような実利的植栽を入れると、家族間で、またその両親も含めた間で、世代も超えて交流が生まれます。また、果樹が周囲の住宅の二階や高層階からも見え、花が咲いたとか実がなったとか、近隣の方たちとの間に話題を生んでくれます。収穫はおすそわけすることもでき、地域のコミュニケーションも生まれます。

なお、室内ですが、屋上緑化のおかげで夏はひ



周囲から見える屋上果樹園は、コミュニケーションの源となっている。

んやり、冬は薪ストーブで暖かで、エアコンの使用頻度も低いとの施主さんの話です。

身近に緑を設けて楽しむのは、人間の本質的な楽しみの一つと考えます。しかし、緑化に費用をかけすぎると心理的な負担も大きくなります。業者まかせにせず、お金をかけずにできる範囲で、特別に身構えることなく、失敗もしながら、自分で緑化してみたいかがでしょうか。(設計者談)



建物は、いくつかの小さいスペースで全体が構成されている特徴的なデザイン。屋上果樹園は、果樹の収穫、子どもたちの遊び場、水やり、友人を呼んでのバーベキュー、屋上でのキャンプなどさまざまに利用されている。発生した生ゴミはコンポストで肥料化も。

地域の自然をイメージしたルーフガーデン ——レクリエーションも環境学習も

二子玉川ライズ



ルーフガーデンの全景。

ルーフガーデンができて、周辺住民の散歩コースも増えた。地域から憩いの場所として利用されることを目指す。

平成 27 年 4 月にオープンした二子玉川ライズ（第 2 期）には屋上庭園（ルーフガーデン）があります。近隣の豊かな自然を将来にわたって継承してほしいという地元地権者の意見を発端に、多摩川や国分寺崖線などの地域の原風景を取り入れ、これと一体となった施設建築をすすめました。地域の自然資源を活かしながら、地域の憩いの場として利用されるという計画です。

日本固有のミナミメダカが 100 匹以上生息する 4F のめだかの池では、夏に近隣の子どもたちを対象に観察会を実施しています。また、多摩川流域産でレッドデータに指定されているカワラノギクの保全に取り組むなど、地域固有・在来種の保護育成を図っているほか、多摩川流域で採取した砂利や流木を設置するなどランドスケープの再現に取り組んでいます。

3F の菜園広場は、小学校や幼稚園に、自然学習の一環として、さつまいもやかぼちゃを栽培する機会を提供するほか、近隣在住の子どもたちへ、芋ほりや七草摘みの体験会を実施するなど、食育の機会づくりにも取り組んでいます。



ルーフガーデンの施工と維持管理・運営は同一企業で、プロポーザル方式で決定しました。施工会社が管理・運営を行うことで、改修工事や、お客さまへのご案内など、柔軟に対応することが可能となっています。ルーフガーデンは、植物や生物を相手にしているので、建築工事が終わっただけでは完了になりません。また、近隣への環境学習機会の提供、憩い空間の創出という目的からすれば、まだ道半ばにほかなりません。

今後は、ルーフガーデンを媒介とした地域交流の場づくりができるよう、再開発のコンセプトを継承しながら、引き続き管理運営を続けて行きます。

（開発担当者談）

屋上に見える緑が街ゆく人を誘う

——商業機会と緑の幸せな組み合わせ

東急プラザ表参道原宿おもはらの森



交差点で見上げると、思わず屋上に上がってみたいくなる。

東急プラザ表参道原宿は、表参道と明治通りが交差する神宮前交差点の一角に位置しています。ここは日本のファッションや文化の発信地であり、かつてこの地にあった原宿セントラルアパートには人々が集い、トレンドを生んできた歴史があります。

本プロジェクトでは、そのような歴史や地域環境とのつながりを重視し、計画を進めてきました。建物の屋上や側面に樹木を配し、明治神宮の森から表参道のケヤキ並木へとつづく緑を、建物の中へ引き入れたのです。屋上につくられた「おもはらの森」は単なる屋上緑化ではなく、人々が集う広場（プラザ）として計画がなされています。

屋上のトップライトを中心にすり鉢状に構成された空間の外周部には常緑樹を、内側には落葉樹を配し、四季の移り変わりを感じられるよう配慮されています。夜間はイルミネーションがよく映えます。道行く人が足を踏み入りたいと思うような場所になったと思います。



庭園の横はカフェ。緑をながめながら、あるいは緑のなかでコーヒーを。

屋上にはテナントとしてカフェが入っていて、「緑がお客さまを誘ってくれる」と喜ばれています。また、季節毎のイベントも行われ、賑わっています。緑は気持ちがいいものですが、それだけでは商業上の魅力として十分とは言えません。建物の機能とうまく組み合わせることで、商業的に大きな効果をもたらすと思います。

大きな賑わいをみせる「おもはらの森」が、人と人、人と自然のつながりを生み出す空間として、商業的な集客装置にとどまらず、街の資産として訪れる人々の思いとともに育っていくことを期待しています。
(開発担当者談)

武蔵野の里山空間を地域のシンボルに ——里山管理の手法で屋上に雑木林を

コピス吉祥寺吉祥空園 sora



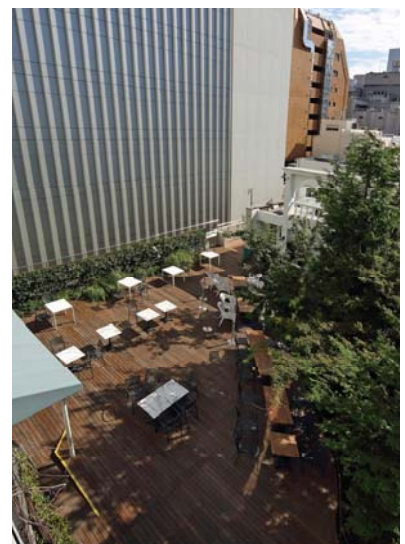
親子で遊ぶ人やベンチで休憩する人、お弁当を食べる人などでいつもにぎわう。

ビルの耐震補強工事と外装リニューアル工事を実施した際に、低層階屋上を緑化し、武蔵野の原風景ともいえる雑木林を再現することを目指した庭園をつくりました。樹木は、コナラやクヌギなど。さらに、下草としてさまざまな野草を植え込み、植栽種は合計約60種にのぼります。木の根があるので根元のあたりが盛り上がりますが、地形の表情づくりに役立っています。

コンセプトを貫きながら、それにあった形で緑化空間を維持していくことが大切です。ここでは、里山でよく使われる樹木の管理手法を取り入れています。主幹を伐採して、切り株から出る芽を育てるのですが、こうすると背丈が抑えられ、自然な株立ちの樹形も作り出せます。建物への荷重が軽減するという利点もあります。

ウッドデッキを利用したさまざまなイベントも行われています。これまでに、お茶会、春秋のお月見、美術大学生の作品発表や専門学校生のファッションショー、壁に投影しての映画会などが実施され、大変好評を得ました。また、地域にはいくつかのタウンウォークグループがあって、よく訪れてくれます。個人のブログ等でもよく取り上げられていますが、概ね、評判がよいようです。

(開発担当者談)



緑に囲まれたデッキはイベントスペースでもある。

地域のよりどころとなる屋上庭園

——ファミリーにも愛されて好評

グランツリー武蔵小杉



屋上庭園は、いくつもの空間で区切られ、さまざまな遊びや活動に、小さい子どもから大人まで利用できる。すぐ下の階には、「ママのため」を意識したファッションやこどものアイテムのお店、フードコートが入る。

事前にアンケート調査をしたところ、武蔵小杉には公園などの小さなこどもの遊べる空間が少ないことがわかりました。そこで、計画中のショッピングセンターの屋上を、地域の人々が土と木にふれあう庭園として整備することにしました。この建物が街のシンボルであり、憩いの場でもある大きな木のようにあって欲しいとして付けられた、「グランツリー」の名にふさわしくもあります。屋上を庭園とすることで、階下店舗への来客が増えるシャワー効果も期待しました。

ぐらんぐりんガーデンと名付けられた屋上庭園は

人々に四季を通じて心地よい時間を過ごしてもらおうスペースです。さまざまな特徴ある空間で構成されており、子どもたちは、その空間を行き来しながら、滑り台やチョークでの落書き、噴水など、さまざまな遊びを体験することができます。多くの植物が植え込まれていますが、実のなる木々を多くして、子どもたちが実際に触れられるようにしています。

未就学児童を持つ家庭には、こどもを安心して遊ばせることのできる空間として、高く評価されています。（企画担当者談）

活用されて、営業面でも大いにプラス ——お客さまにもスタッフにも好評の緑化空間

ルミネ北千住



ルミネ北千住 30 周年イベントをはじめ、屋上はさまざまに活用されている。当店以降、他店舗でも緑化するようになってきている。



気候のよい春・秋などは、屋上でお弁当を食べるスタッフも多い。

NPO が管理する菜園。建物内にある保育園の子どもたちも、サツマイモの苗を植えたりしている。

企業としてのエコ・環境を意識した取り組みであるとともに、スタッフに憩いの場を提供できることから、補助金もいただいて、約 8 年前に屋上に芝生を整備しました。環境に寄与することはもちろんですが、現在、さまざまな用途に活用されていて、営業的にも十分寄与してくれています。

まず、スタッフの憩いの場として大変喜ばれています。ここでのリフレッシュがお客さまへのよりよいサービスにつながっていると思っています。

商業施設の屋内はテナント空間であり、イベントスペースが不足しています。そこで屋上の緑化空間がイベントスペースとして活躍します。また、イベントは業界でいう「コト消費※」。ハロウィンやクリスマス

マスなどのシーズンモチベーションに合わせたイベントの開催や、さまざまなワークショップといった体験型のキャンペーンを多数開催しています。大変好評です。

菜園も作りました。NPO 団体に委託して菜園を管理運営していただき、ブドウやトマトなどの果物や野菜を栽培。収穫体験も行っています。

ルミネ北千住内に保育園があり、その子どもたちが運動する場所として、あるいは運動会や納涼祭などのときにも使われています。保育園の子どもたちを見るのは、スタッフにとっても癒やされるものです。

(管理担当者談)

※所有よりも経験を重視する近年の消費行動。「モノ消費」に対して用いる。

店に、街に、大きなにぎわいを ——屋上を生まれ変わらせた緑のちから

西武池袋本店



屋上全景。「睡蓮の庭」を奥に、緑化された壁が屋上を取り巻く。既存建物で耐荷重の制約があり、池付近の荷重は柱で受けるなど、構造に工夫がなされている。造園施工者が常駐管理し、きめ細やかに緑の維持管理を行っている。



睡蓮の庭。橋や木々が池の水面に映り込む。



レストランフロアがいつも一杯で、屋上での飲食への対応が期待されていた。

「食と緑の空中庭園」として、池を中心とした緑化空間である「睡蓮の庭」をはじめ、壁面緑化やコンテナ植栽の緑に囲まれた飲食スペースなどを整備しました。

幅広い年代のお客さまにご利用いただき、特に若い女性層には、おしゃれな空間で安心して一人でもおいしく食べ、飲むことを楽しめる場所は貴重だとお喜びいただいています。夏の夕方はビアガーデンで社員のグループが多く、休日はファミリーと、曜日や時間によって、さまざまなお客さまにお楽し

みいただいています。

バラにまつわる文化に関する講座を開いたり、大道芸のパフォーマンスがあったり、イベントなどの体験型サービスも充実させています。

豊島区役所庁舎が新築移転され、緑化もされると聞いて、区の動きと合わせた地域貢献のタイミングと考えました。「池袋を、安心して気軽につろげる、上質な街に」と、関係者が同じ方向を向いたことがよかったという気がします。

(開発担当者談)

外壁に張り出した緑化バルコニー ——店舗内外で来店者を歓迎

京都銀行歌島橋支店



1階と2階の間に緑化専用のバルコニーを設置するというユニークな設計。店舗内からも、ふと顔を上げると緑がいっぱい。

この土地に店舗を建てる時、周辺に緑が少なかったため、緑が欲しいと考えました。ところが、敷地面積に余裕がなく、かといって屋上緑化では、ふだんは見るできません。そこで、1階と2階の中間の外壁にバルコニーを設け、緑化することにしました。これなら、建物外からはもちろん、建物内からも高窓を通して緑を見ることができます。設計施工会社に提案していただいたのですが、名案でした。

当行には、環境対策への取り組みとして、屋上緑化、地域産木材の利用、太陽光発電などを進めて来た背景があります。新規出店の際には出店計画が審

査されるのですが、「緑化が少ないのではないか」という指摘の出ることがあるほど、緑に対する経営陣の関心が高くなっています。積極的な店舗展開を進めるなかで、周辺の店舗との差別化を図るため、新しいものを取り入れていきたいというねらいがあり、環境への配慮が着目されてきたのです。

行員からの反応はとてもよいですし、地域の人からも、緑によってうるおいができた、とてもよい反応をいただきました。ちょっと変わったつくりと話題にもなりました。この地域で後発の出店だったのですが、この緑化バルコニーで、よいアピールができたと考えています。（店舗建築担当者談）

丸の内の人気スポットを緑で作り出す ——働く人にも街行く人にも憩いの広場を

丸の内パークビル・三菱一号館／一号館広場

円柱壁面の緑化では、模型を作り、植栽種を慎重に選定。施工時（下）と比べ、今は植物が育ってきている（右）。



バラを鑑賞しながら休む広場は、くつろぎ効果大の空間。

丸の内のオフィスビル街の空間をどのようにデザインするか考えたときに、「憩いの雰囲気になった空間」という方針に決まりました。確かに丸の内には、ベンチや休める場所が足りない。そこで、働いている人も、歩行者も、緑のそばでくつろげるような場



訪れる人がエリアに賑わいを作り出す。

所となるよう設計することにしました。当社としては環境共生に関する取り組みは何でも取り入れると計画初期段階から決めていたので、そのコンセプトの下に、円柱壁面、屋上、広場を緑化したのです。ただし空間の使い方や緑化の仕方については、開発関係者や徐々に決まってくるテナントと協議を重ね、十分調整しながら進めました。

イベントに使用するのはクリスマスイルミネーションなどの限られた場合だけのこととし、だれでもやってこられて、英国のバラやそのほかの緑を觀賞しながら、ほっとしながら気持ちよく過ごせる場所づくりを目指したのです。

非常によい空間に仕上がったと考えています。管理会社からは、働いている人たちからの評判もよいと聞いています。街の魅力向上という点については、丸の内仲通りに行く歩行者数は確実に増えていますし、訪れた人が賑わいをつくりだしてくれています。

（企画・設計担当者談）

オフィスワーカーのための屋外執務空間 ——テナント自身が活用法を考案

新目黒東急ビル



緑化空間を利用して、丸の内や大手町のビジネス街にあるオフィスとは異なる価値を目指した。



建物が階段状とならざるをえないため、屋上テラスとして何らかの活用をすることを企画しました。デベロッパーとしては、「緑・光・風」を建物のコンセプトとしていましたから、戦略的な開発をめざし、屋上テラスをオフィスワーカーのための、緑の中の屋外執務空間として作ることにしました。その利用の仕方や屋内空間との組み合わせ方は、テナント自身が自由に考えられるものとしております。

休憩もでき、執務も可能なスペースとなるよう、家具、照明やコンセント配置、気候の冷暖への対応などに関してメーカー等と協議検討を繰り返し、気を配って設計しました。ビジネス街のオフィスとは異なる、差別化したイメージをもたせ、競争力を付けることに成功したと思います。その結果、IT系や外資系企業の入居が進みました。あるテナントは、新商品の撮影にも利用していると聞いています。

緑はコストが掛かかるとありますが、優先事

項の1つという認識であり、会社としても緑化に力を入れています。また、将来の不動産としての価値を高めるには、緑化に関して施工時の計画を理解して、適切に維持管理することも大事です。

緑があるとなんとなくいいですね、ではなく、その良さを証拠立てつつ、コンセプトをもって当社のオフィスビルに組み込まれるようにしていきたいと考えています。
(開発担当者談)

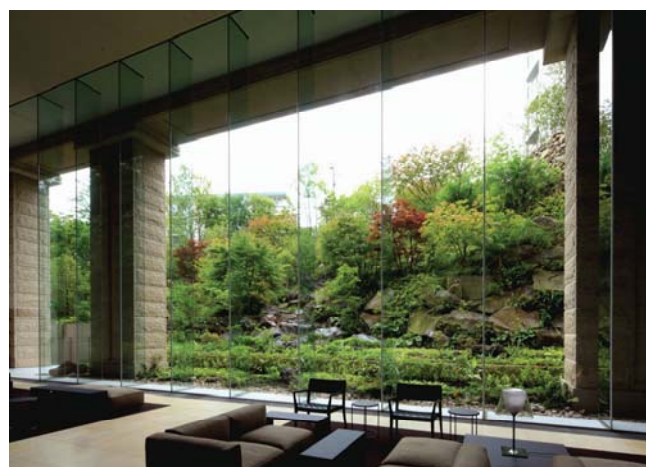
周囲からトータルに建物を緑化

——法面や敷地の緑化がテナントや周辺住民に好評

ガーデンシティ品川御殿山



テナント勤務者は屋上庭園を利用し、周辺住民は崖周りの緑地や周囲からアクセスできる屋上庭園を利用している。



建物内から見る崖の緑。屋上庭園とも調和させている。

緑化で、新たな価値を創造。施工後も、設計者、施工者、管理者が定期的に揃い、状況確認やメンテナンスを実施してきた。

今回のプロジェクトは、外構計画が大きなテーマの一つと考え、4つのブロックと周辺を繋ぐ「御殿山の原風景の再生」を目指しました。

当社は「5本の樹」というコンセプトのもと、お客さまに地域の在来種を植えていただくよう願っています。本件ではそのコンセプトに基づき、地域の自然再生や広域的な緑地軸の形成を目指したのです。

また、敷地は、最大で20mを超える高低差があり、全体敷地面積は28,000㎡を超えています。建物屋上や壁面はもちろんのこと、崖地を含めた外部空間全般を緑化する事によってこそ、緑地軸が作り出せると考えたのです。

おかげさまで、テナントの皆さまには大変好評で

す。テナント募集に苦勞しがちな法面擁壁に面した閉鎖的な部屋も、壁面緑化が評価され、そちらから入居が決まるほどでした。

近隣住民の方とも大変よい関係を築くことができました。説明会や情報交換会を通じて計画を理解いただき、また要望を取り入れています。緑化に加えて道路勾配の調整をし、歩きやすい区道整備にも力を入れました。周辺地域の資産価値を高めたと言っただき、評判も上々です。

開発に不利な要素がある場所でこそ、緑で新たな価値を創りうると実感しています。今は、難しい条件でも緑化を可能とする技術がありますし、アイテムもあります。また、緑化を義務づけられない小規模開発の場合こそ、緑化は他物件との差別化に有効ではないでしょうか。（開発担当者談）

感謝を込めてテナントのための空間創出 ——既存の建物も工夫次第

豊島屋ビル



既存ビルの屋上が緑化され、和風の庭園に。流れも整備されており、水音によるリラックス効果も期待。



テナント退去により、一度全館空室となった当ビルですが、大規模リニューアルを経て、全館満室となりました。それをきっかけに、新テナント各社への感謝の気持ちを含めて、屋上を緑化し、庭園を整備することにしました。当ビルで働いている人の憩いの場となるようにデザインしました。和風庭園風で小川の流れもあります。

テナントの人たちにはよく利用していただいていると思います。傷んだウッドデッキの改修に1か月半ほど屋上を閉鎖したところ、再開予定の問い合わせが多数あり、屋上庭園の人気をあらためて感じました。

屋上庭園が存在するだけでテナントの入居が決定

するとは思いませんが、入居しているテナントが定着し、長期的にビルの稼働率が安定するという効果は実感できています。

テナント希望者の内見の際には、屋上は必ず見てもらい、テナントが利用できることを伝えています。屋上庭園はこのビルアイデンティティであり、PRにも利用できるため、名刺にも屋上庭園のことを書き込んでいるくらいです。

また、グループ会社である豊島屋酒造が醸造する日本酒のPRイベントを、当社やイベント業者が開催するときにも、この屋上庭園を利用しています。その場合は、テナントに配慮して、開催は土曜日曜の夜としています。
(管理担当者談)

熱意と創意が生んだ緑化空間

——工夫を凝らして、仕事に、休憩に、接客に

日本ヒューレット・パッカード 本社ビル



植栽は、3年後に緑のフェンスを、が合言葉だった。



和室4部屋から見る植栽景観は、部屋ごとに色や植栽の種類が異なる。



初夏にはバラの花が咲きほこる。



竣工直後（2011年4月頃）の状況。まだフェンスが緑で隠れていない。



屋上庭園で仕事することも。

屋上テラスに当初予定したのはガラスウォールのフェンスでしたが、建設途中の為替変動で予算が見直され、通常の金属フェンスになってしまいました。しかし、これで「3年後、緑のフェンスに」を合言葉に、屋上緑化に本腰が入りました。

もともと植物に興味があり、華道教授でもあるので、造園会社の方と外構緑化計画を見直しました。地上部の高木を20年ものから10年ものに交換し、屋上庭園の資材を変更するなど、予算の割り振りを工夫し費用を捻出しました。屋上の緑が充実してきたと感じたのは、合言葉通り、竣工後3年目くらいからでしょうか。社員にもお客さまにも好評です。会議、会食、接待で使用する和室から見える植栽は、それぞれの部屋から見える花の色などを変えたカラーガーデンとし、風水の考え方も取り入れ、北東鬼

門に鬼門封じの工夫もしました。屋上庭園には200名分のテーブルや椅子があり、社員は昼食をとるだけでなく、無線LANとノートPCで仕事をすることができます。本社内社員のうち75%は自席をもたないフリーアドレスなのでテラスも自席として使用できます。夏季はビアガーデンとしても利用しており、社員に人気があります。地元の花火大会を見る場所として、都立公園や河川に面しており、夕焼けがとてもきれいです。

緑化関連の維持管理は、造園施工会社の系列会社に依頼しています。緑化は施工時では終わらず続くものですから、結果、よかったと思っています。今後は、育ってきたハーブやバラで、ハーブティーやローズヒップティーを提供し、さらにミツバチの飼育もできたらと思っています。（管理運営担当者談）

京都駅前に立地するグリーンビルディング ——企業の広告塔としても機能

ローム京都駅前ビル



建物の南側正面全景。京都駅から美しい緑を望むことができる。



地被植物が美しく
模様を描く。

築 33 年の既存オフィスの全面改修にあたり、屋上緑化を実施しました。省エネ推進の一環として、ビル南面のダブルスキンカーテンウォール化、高効率空調機器の導入、照明の全館 LED 化などとあわせて実施したものです。

屋上にはエレベーター機械室となっていた塔屋がありましたが、これを一層解体して建物のスカイラインを合わせるとともに、京都タワーからの眺望に配慮して地被植物やアイビーによる美しい屋上景観を創出しました。

また、屋上緑化によって屋上スラブの蓄熱や熱の侵入を抑制し、最上階の空調も下層階と同等の

効率で運転することが可能となっています。

京都駅の正面に立地し、平成 23 年度省エネ大賞（資源エネルギー庁長官賞）を受賞したビルであることから、国内外の行政関係者や建築関係者などの見学依頼も多くありましたが、屋上緑化はその際に欠かせない紹介ポイントになっていました。

竣工以来、ローム京都駅前ビルは、環境や省エネに対する当社の取り組みを PR する広告塔としても機能しており、ドラマの撮影などに利用されたこともあります。今後も世界的な観光都市・京都の玄関口にふさわしい美しい建物であり続けたいと考えています。
(管理担当者談)

屋上は工夫を凝らしたリハビリ空間

——見舞客もPRに一役

医療法人仁医会 あいちリハビリテーション病院

これまでもグループ内他施設で、園芸療法の設備を設けたり、温室を作ったりした経験がありました。その経験もふまえて、新病院建設にあたり、リハビリに利用できる屋上庭園を整備すると決まりました。

決定はトップダウンでしたが、スタッフを含めたワークショップで現場の声を十分すいあげ、またスタッフが主体的に取り組めるようにもしました。整備内容や収支計画の裏付けはコンサルタントがフォローしました。



リハビリ空間の広がる屋上。セルフサービスのカフェが室内にある。



畑は広さが1～3畳分程度でよいので、スペース確保はむずかしくない。



病院で消費する以上の野菜作りも可能と考えられ、販売して種子代、肥料代にできそうである。

あえて段差や階段を設けた園路や菜園が設けられています。野菜の栽培は特に人気があり、患者さんたちも積極的に世話をしてくれます。車いすでも利用できる作業台や流し台を設けました。収穫や調理がイベント化できていいですね。緑化は「食」を中心に考えると生活の中に根づき、活動が広がっていきますからおすすめです。緑化したあとの活動や利用のシステムを合わせて考えておくべきでしょう。

利用者の感想を書き込めるノートを置いてあり、その反応がわかります。見舞客にも好評で、見て帰って、宣伝もしてくれるようです。地域にも屋上庭園を開放してお祭りを開催しています。

（担当スタッフおよび計画コンサルタント談）

すべての病室から見える心やすらぐ緑 ——院長の理想を実現

医療法人清慈会 鈴木病院



7階建ての病院とその前に建つ駐車棟。駐車棟の屋上と病院側側面が緑化されている。



駐車棟の屋上庭園に上る階段。見舞客や見舞客と一緒に患者、弟妹を出産した母親を見舞う子などが散策。



「どの病室からも外の空気と緑を感じられる」、そんな療養環境を提供できれば、治療を受けていることを忘れ、快適に過ごしていただける病院ができると考えてきました。

このような発想から、今回の新病院の建設にあたっては「ガーデンホスピタル」をコンセプトに据えることとしました。これにより、入院生活を送られている人たちに、心の安らぎをもたらす環境が実現すると考えたのです。この発想はまた、院長である私自身が入院した時の体験が、大きなきっかけの一つとなっています。独立開業以来、数回の増改築を経て、ようやく私の目指していた満足できる病院ができました。

具体的には、外来診療部門のある1、2階を全面ガラス張りにし、3階以上の病室も開放的で外からの空気を取り入れられるよう工夫してあります。建物周囲に緑を多く配置し、敷地内の公用車駐車棟は壁面と屋上を緑化しました。特に壁面は、室内からの見え方に配慮して階段状にするとともに、上がって寛げる空間を設けました。駐車棟の周囲を緑化することで、施設全体のイメージもすっかり変わり、普通の平面駐車場にせずに緑化した効果を改めて実感し満足しています。「土地がない、資金が足りない」はどこも同じだと思いますが、緑化に向けた明確な意思を持ち、専門家のアドバイスを受けて実現することをお勧めします。
(院長談)

医療介護からアンチエイジングレストランまで ——セットバックで生じた屋上テラスを緑化

医療法人いつき会 メディカルいつき



屋上テラスは生活リハビリテーションの場として活用されている。屋内からの眺めもよくなる。



医療福祉系ビルの5、6、7階の北側が階段状にセットバックされ、それぞれ屋上テラスとなっています。5階にはフィットネス、6階にはデイケア、7階にはリハビリ室とレストランが入っています。テラスを緑化して、生活リハビリテーションにつながる活用のしかたを工夫しようとスタッフで話し合い、理事長の賛同も得て、菜園を中心にした緑化を展開することにしました。

6階では、「菜園生活支援プログラム」と名付けた、野菜の栽培から調理までを一貫して行う生活リハビリテーションを行っています。菜園で手を動かすのも重要なリハビリテーションですので、スタッフがつく時間を決めて、実施しています。また、7階の

カフェ/レストランでは、屋外にもテーブルがあり、緑を見ながら食事をとることができます。5階のフィットネスジムでは、無機質になりがちな眺めが、緑によって潤っています。花や木が窓から眺められ、特に高齢者にはなくてはならないと感じています。

デイケア利用者にもレストラン利用者にも、屋上テラスはたいへん好評です。本施設は、医療から介護、フィットネス、運動介助、健康を考えた食事など、一連のサービスを提供することができ、今後、当医療法人グループの中でも、他施設のモデルになると考えています。 (管理運営担当者談)

実証された森林セラピーの場 ——既存施設の屋上を緑化して効果を研究

医療法人徳松会 老人保健施設エルダリーガーデン



緑に包まれた屋上ガーデン。特に、花をつける樹種が多く植えられている。



リラックス効果をもつ水音は、森林セラピーで重要な要素。



施設をリニューアルした際に屋上を緑化し、森林セラピーの場として使用してきました。今では、「屋上緑化で有名な」と言ってくれる方が多く、屋上緑化は本施設の代名詞にもなっています。

屋上は、樹木がこんもりとしげり、樹種には四季を感じてもらえるように花ものを多くしました。五感に訴えることを大切にして、流れの水音にもリラックス効果を期待しています。実際に入所者やスタッフを対象に心理的効果や生理学的効果についての調査研究を行い、大きな効果があることを確認して、学会発表なども行ってきました。

階下からはエレベータで上がってこられるようにしてあり、ほぼバリアフリーです。屋上に出たい人は介護者についてもらい、車いすで上がってきます。車いすで芝生が傷むかもしれませんが、それはかまいません。屋上なので、安全面、衛生面などの制約や不安は少ないと思います。

重度の要介護者でも、ここへ上がってくると反応がよくなるのが、うれしいです。特に、施設では年

1回、自身の懐かしい場所を訪れて、楽しかった思い出を蘇らせるという活動をしています。重度の要介護者は、屋上に上がってきて回想してもらいます。

また、屋上でリラックスできるのは、入所者だけでなく職員にとってもありがたいことです。休憩や昼寝によく利用されています。介護施設は離職者の割合が多い、たいへん厳しい職場ですので、せめてここで休憩をとってもらえればと期待しています。

(施設長談)

入居高齢者の園芸利用可能な洋風庭園、眺めて楽しい和風庭園

湘南ふれあいの園 シニアレジデンス町田



4階建て建物の2階に屋上庭園。和風庭園、洋風庭園、路地庭からなる。

4階建ての建物の一部1階屋上(2階フロアレベル相当)に、和風庭園、洋風庭園、路地庭を作りました。1階病院を利用する一般外来患者からは見ることができませんが、3階、4階の病室フロアの入院患者からは、いずれの庭も眺めることができます。

2階の有料老人ホームからは、洋風庭園に出ることが可能です。ここは入居者に開放されており、自立度の高い人は草花の手入れをしたりしています。自立度の低い人はそれを眺めたり、季節感を味わったりなどの利用の仕方をしてもらっています。和風庭園にも出ることが可能です。いずれの庭園も、植栽は中高木を含めて元気に育っています。屋上庭園に関しては、施工者の系列会社に維持管理を委託しています。



経営上は、庭を作るよりも部屋を増やしたほうがよいかもしれませんが、自然と調和し、自然を身近に感じられる施設にすることが入居者や入院患者のためにより、という理事長の信念にもとづき誕生した屋上庭園です。「エコだ」、「環境にいい」だけでは続きません。医療サービスの一環であり、理事長の理想とするところであるとの考えが後押ししています。数値的には把握できてはいませんが、有料老人ホームの新規入居にはつながっていると感じています。(施設長談)

休み時間は屋上で生徒がリラックス ——学校の雰囲気まで明るくなった

灘中学校・高等学校



窓際を緑化するグリーンボックス。



中学校と高校の校舎の間にある図書館の屋上を緑化。休み時間には生徒が寝そべっていたりする。

施設改修時に、屋上緑化を取り入れました。当校は、中学校と高校が同一敷地にあるのですが、双方の校舎の間に図書館を建て、その屋上部分で中学校と高校を結び、回廊にしたのです。そもそもは風致地区にあることから、地方自治体より新設同様の緑地率を確保するよう要請があつて、緑化が必要になったのですが、どうせやるなら生徒が気持ちよく過ごせるようにと、設計者の提案で図書館屋上を緑化するアイデアがまとまったのです。

緑化空間を特段何かに利用しようという目的はなく、生徒たちも昼休みに寝そべったり、リラックスしたり、自由に利用しています。ほっとする空間が

できて、よかったのではないのでしょうか。PTAの役員の方からも、きれいであると大変評判がよいです。緑化だけの成果ではないと思いますが、学校の雰囲気を明るくするのにおいに貢献してくれていると感じています。学校説明会や広報誌などでも、屋上緑化空間の写真はPR用に大変活躍しています。

壁面に緑を、と設置したグリーンボックスについてもよかったと思いますが、植物が伸びすぎる傾向にあり、少々手入れの大変さを感じています。設置場所や数量などについて、もう少し考慮するとよかったです。（教頭談）

屋上のビオトープや菜園は、生徒や保護者に大人気

実践学園中学・高等学校



「実践の森」には、ビオトープ、バードウォッチカメラによる観察、風力・太陽光発電モニタリング装置などがある。



「実践農園」では、稲作、野菜作りなども行われている。PTAが世話をするハーブ畑もある。

都会の住宅地とあって校地が狭く、生徒の居場所は教室のほかに屋上しかありませんでした。でも、居心地のよいところではなかったのです。屋上緑化の提案はPTAから出たと思います。教育に活用できる、補助金が出る、学校の予算でも対応可能とわかり、計画が具体化しました。

卒業記念の学校への寄付も活用し、校舎屋上の片側に観察を目的とした「実践の森」を、もう片側に体験型の「実践農園」を整備したのです。

生徒もPTAも、屋上に関して、きわめて精力的です。観察と体験の両方が行えるようにしたのもよかったです。畑や土いじりは特に人気があります。稲作、野菜作り、ビオトープ、風力発電や太陽光発電のモニタリング、温度の計測、バードウォッチカメラによる動物観察、積極的な活動が続いています。

中学と高校で希望生徒を募り、活動組織（現「環境プロジェクト」）を設置しました（現在約20名在籍）。また、当校は環境研究グループ「高校生環境連盟」に勧誘されて加わり、他校と情報交換したり研究発表したり、互いに啓発し合っています。「高

「実践の森」と「実践農園」の間が休憩スペース。屋上は、屋休みと放課後は生徒に開放されている。奥に見えるのは屋上出入口。



校生環境サミット」にも参加しています。学校説明資料に掲載し、説明会でも見ていただけますが、大変人気があります。入学後の学校生活をイメージするのも役立つようです。

屋上の利用では、教育という側面と憩いという側面のバランスをどうとるのがポイントでしょう。勉学の要素が強すぎると、利用は一部の生徒に限られてしまう。幅広い生徒に利用され、利用の結果思わぬ気づきがある、というのがよいと考えています。

（担当教諭談）

学園生活の中心で、大学のシンボル

——施設建設で失われる緑の再生を目指して

関西大学総合学生会館メディアパーク凜風館



サクラで埋めつくされた屋上庭園。



屋内から眺めるテラスも緑豊か。

屋上とテラスを緑化した学生会館は、学内のランドマークでもある。

大学創立 120 周年記念事業として学生会館を建設した際に、屋上とテラスを緑化しました。地元自治体による風致地区の規制もありましたが、そもそも環境保全に力を入れるべきという時代背景や学内の認識もあったと思います。緑豊かな計画とすると、理事会役員会でも説明しました。

目指したのは、建設によって失われる学内の緑の再生と、建物への熱負荷の軽減。緑化では、120 本のサクラを植栽しました。建物の冷房システムは、計画上小さいもので済ませることができています。

屋上庭園やテラスの木々は周囲からも見る事ができ、学生会館は学内のシンボリックな空間となっています。たとえば、オープンキャンパスなどでの見学コースのひとつとなっています。また、日常の学園生活の場として、屋上で休憩したり昼食をとったりする学生も非常に多いようです。当校には付属の中学校と高等学校が併設されていますが、屋上庭園は、生徒たちの環境教育にも活用されています。

(施設管理者談)

地上の緑と屋上の緑の連続性確保 ——キャンパスマスタープランにも整合

東京農業大学アカデミアセンター



里地・里山、地域性を表現した庭。築山を作り、国分寺崖線や草原を表現。



武蔵野の植物を植えている。留学生に、日本の野草として評判。



施設の建て替え時に、屋上を緑化しました。開発に関わる協議の中で行政から求められました。建て替えに際してメタセコイヤを数本切らざるをえなかったことや、新棟周辺との緑の連続性を確保する観点からも、屋上緑化が強く望まれました。

キャンパス環境をさらに良好にしようという目的ですから、屋上緑化に関して、本学造園科学科の教員にアドバイスを受けつつ、計画を進めました。さまざまな緑化技術を活用して、屋上を里地里山や地域性を表現・演出した空間にしています。たとえば、国分寺崖線や草原をイメージした武蔵野の草花や雑木林の植栽、湧水をイメージした小鳥の水飲み場などです。

高校生対象のキャンパス見学会などのイベントでは、ここの見学が目玉企画として必ずルートに加え

られていて、学生からの評判もとても良好です。留学生には、日本の植物を紹介する空間として活用しています。

屋上庭園は、一般開放はしていませんが、視察時の案内ルートには組み込まれています。特に、野草に詳しい見学者から、大変好評をいただいています。また、卒後20~30年の卒業生に見ていただく機会も設けています。

なお、本学では他の建物の屋上緑化で、ブドウやお茶の栽培にも取り組んでおります。ブドウは収穫し、ワインを試作しています。現在は、学生による管理が学習も兼ねて不定期に実施されていますが、将来的には、授業や学習にもっと役立てられればよいと考えています。 (施設担当談)

六本木ヒルズで季節感を感じる屋上やテラスの緑化——豊かな緑で学生のメンタル面も向上

六本木ヒルズハリウッドプラザ/学校法人メイ・ウシヤマ学園



植物は眺めるばかりでなく手入れが大切。学生の情操教育としての位置づけだ。



ベランダでは水田稲作も実施している。



六本木ヒルズ開発以前は大変植栽豊かな環境で、開発後もその木々を生かしたい、極力緑化したいと考えていました。ハリウッドプラザは建物や地盤のステップバックなどで生じたスペースを極力緑化し、建物の上層階にはベランダを回し、屋上テラスと合わせてそこに植栽しました。

ベランダのおかげで緑を置くことができたばかりでなく、夏の日差しが差し込みません。窓の開閉が可能で、中間期の空調負担を軽減できています。都会の真ん中でも季節感を感じることができ、学生のメンタル面に非常によい影響を与えていると実感しています。避難時にも有効でしょう。コスト面で、十分元がとれています。

学生には、自然を自らの手で育てることで、感性を育ててほしいと思っています。1つの情操教育で

すね。そういうわけで、植物の日常的な維持管理は学生や教師が行い、専門的作業のみ造園業者に委託しています。12年目になる水田稲作では、田植えから収穫、餅つきまで、学生が行っています。足踏み式脱穀機は造園業者から借り、臼と杵を使用しての餅つきです。

緑化は、お金をかけないやり方でできると考えます。だからといって、緑ならなんでもいいわけではありません。ここでは、基本的には、山野草や自然の草花で緑化する方針です。そのよさがわかる人を育てたいという考えです。また、食や健康は非常に大事ですから、実がなり、食につながるものも植えていきたいと考えています。

(理事長および管理担当者談)

3

もう少しあります

建築における緑のはたらき

1. 外資系企業の関心の高さ

日本ヒューレット・パッカード 本社ビルの充実した緑化がなされた屋上テラスを、前章の事例紹介で見いただきました。この建物は、周囲の地上部の緑化にも力を入れており、トータルとしても高いクオリティの緑化を成し遂げています。

いわゆる外資系企業の緑化に対する関心の高さは、他の場所でも聞くことができました。いくつかの商業系やオフィスのテナントビルにおいて、緑化が高く評価されて外資系企業の入居が進んだと思われるとのこと。一般的に日本の企業はオフィスの駅からの近さやアクセス性というものをまず第一に考えるのに比べ、外資系企業はオフィス環境を重視している印象を受けるとも聞きます。

これは、駅近物件でなくても、緑化によりオフィス環境を整えれば、それを重視する傾向のある外資系企業をテナントとして獲得できる可能性があるということです。さらに、外資系企業の入居は、日本企業への入居の呼び水となるかもしれません。

日本の企業でも、IT 関連企業はオフィス環境重視の傾向があるようです。テナントのターゲットとして、外資系企業と IT 関連企業と並べて取り上げられることもありました。

● 2章の事例における建物緑化と外資系企業

商02 東急プラザ表参道原宿

流行をリードするような商業ビルのテナントとして、海外ブランドや外資系企業が入居しています。なかでも、屋上庭園に面した店舗からの評価は高く、本社事務所の選定にも影響を与えたと聞いています。



勤02 新目黒東急ビル

ビジネス街のテナントオフィスとは一線を画す、緑あふれたテラスを持つビルです。外資系企業やIT系企業の入居が、まず進んだと聞いています。

勤03 ガーデンシティ品川御殿山

アメニティ性が高いと評価され、外資系企業が多数入居しています。最寄り駅から少し離れていますが、入居した日本企業からの評判も、もちろん良好です。



勤05 日本ヒューレット・パカード本社ビル

地上部、屋上テラスとも、充実した緑化がなされています。勤務時、休憩時とも快適であることはもちろんのこと、来訪者にとっても企業を印象づける空間となっています。

2. 「食」とのむすびつき

屋上、テラス、ベランダなどの緑化に際して、その一部に野菜やハーブ、果樹を植栽する事例は、大変多く見ることができます。本格的に、菜園、ハーブ園、あるいは水田などとして整備する場合があります。

施設本来の目的や用途によって、整備の仕方は異なりますが、野菜などの手入れや収穫は年齢性別や、土いじり初心者か否かを問わず人気があり、活発に利用される空間となると聞きます。

食材の生産と提供、学習や情操教育、園芸療法など果たす役割も幅広く、施設本来の目的や用途と密接に関連するため、せっかく作った屋上等の緑化空間が後日顧みられなくなることはありません。

種まきや植え付けから、収穫に至るまで、イベント化が可能で、収穫物を利用したレストランや、その調理活動をリハビリりに利用したり、学習に利用したりすることなども可能です。

果樹などの木本類を除けば多くが一年草であり、幅広い世代に人気があるので、ぜひ建物を緑化する場合に可能性を検討することをお勧めします。

規模が大きい場合や学習利用、イベント開催を中心とする場合は、それぞれの栽培や農地管理などに詳しい指導者、管理者を配置することも考えられます。

● 2章の事例における野菜等の栽培

住05 御影草屋根の家

草屋根の中央付近で野菜を栽培。土壌厚10cmのまま、メロンやスイカも栽培できました。大根等の根菜でなければ様々なものの生育が可能と、栽培を楽しんでいます。

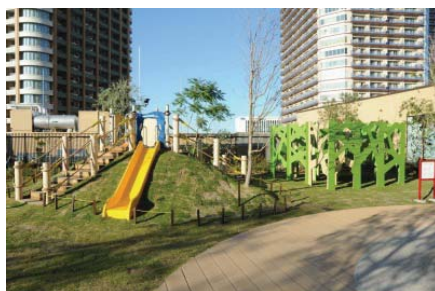


住06 Sg/Secret Garden

平屋根（陸屋根）屋上に果樹園と菜園を、施主と両親で整備。自分で植えて育てれば、愛着が湧き、費用の節約も可能です。実がなる・ならないが、近所と会話のきっかけになります。

商01 二子玉川ライズ

サツマイモやカボチャなどを栽培。芋掘り会のイベントも開催しています。近隣の小学校では総合学習、食育に利用しています。

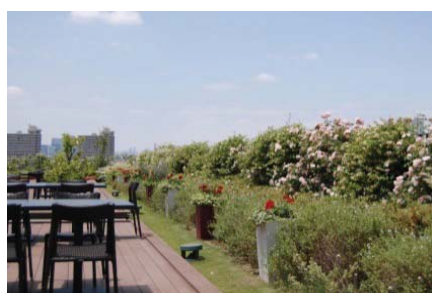


商04 グランツリー武蔵小杉

植栽樹木に、ザクロ、イチジク、オリーブ、レモンなどの果樹を多く使用しました。遊ぶ子どもたちの興味を引いています。

商05 ルミネ北千住

菜園を設け、NPO 法人大江戸野菜研究会に栽培管理を委託。ブドウや野菜を栽培しています。ルミネ内の保育園園児が芋の植え付けや収穫体験を行っています。



勤05 日本ヒューレット・パッカート本社ビル

菜園、ハーブ園、ミツバチ飼育を検討中。社員食堂運営会社の協力で、収穫物の調理・提供も検討。バラの生育がよく、ローズヒップティーも提供したいと考えています。

療01 あいちリハビリテーション病院

菜園は3畳程度の広さで十分です。菜園作業、野菜作りは人気があり、皆積極的に世話をしてくれようとします。収穫物を、病院の食事の食材に加えています。





療03 メディカルいつき

菜園があり、野菜の栽培から調理までを行って、生活リハビリテーションの場として活用しています。菜園での作業は入所者にとってやりがいになっています。

学02 実践学園中学・高等学校

菜園、ハーブ園、水田稲作は生徒に人気。見るだけでなく、体験する緑も、学習の場が必要です。ハーブ栽培はPTAも実施、学園祭でハーブティーとして提供しています。



学05 六本木ヒルズハリウッドプラザ

ベランダのプランターで水田稲作をしています。収穫後、餅つきし、お供えを作るところまで、学生を交えて行います。食を大切にしたいというのが学校の意向です。果樹も育てています。

3. 屋上森林セラピー効果の検証

多くの医療関係施設で、屋上等の緑地がリハビリやレクリエーション、雰囲気作りなどに利用されています。徳島県徳島市の老人保健施設エルダリーガーデンでは、施設長で医師の松永慶子さんが、屋上緑化が被介護者や職員に与える効果を、科学的に検証しています。

「屋上森林セラピーフィールド」と名付けられた屋上緑地の面積は 122 m²。美しい花をつける木、香りをたてる木、紅葉の美しい落葉樹に、人をリラックスさせる効果があるといわれる化学物質フィトンチッドの発散が特に期待される針葉樹など、中高木（26 本）と低木（18 本）が植栽されています。足下は芝などの地被が敷き詰められ、奥の一隅から湧きだした水が、せせらぎや小さな滝となり、水音を立てています。



松永さんは、森林セラピーに詳しい宮崎良文教授（千葉大学環境健康フィールド科学センター）の指導、協力を受けながら、エルダリーガーデン屋上における森林セラピーの効果を実験的に検証しました。

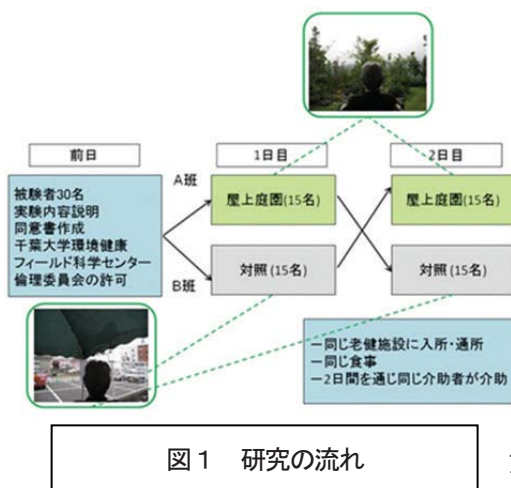


図1 研究の流れ

たとえば、要介護高齢者に及ぼす生理学的リラックス効果を調べています（図1）。

被験者 30 名（平均年齢 81.7 歳）を A と B の 2 班に分け、A 班には 1 日目に屋上庭園で景色を眺めてもらい、2 日目は対照として屋外駐車場で景色を眺めてもらいました。一方、B 班には逆の順序で景色を眺めてもらったのです。

そして、自律神経のバランスを調べることが可能な心拍変動性（HRV: Heart Rate Variability）をそれぞれ測定し、同じ被験者の異なる環境下でのデータを比較したところ、屋上庭園においては、対照と比較して、リラックス状態において活発となる副交感神経活動が亢進していることがわかりました（次頁の図2上(A)）。一方、ストレス状態において亢進する交感神経活動は有意に抑制されていることが、数値で確認できたのです（次頁の図2下(B)）。(*1)

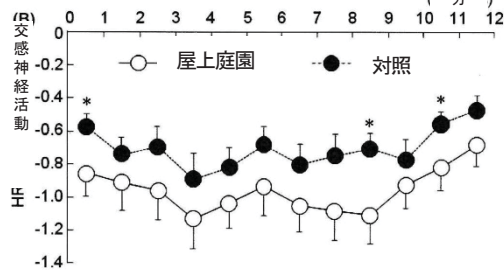
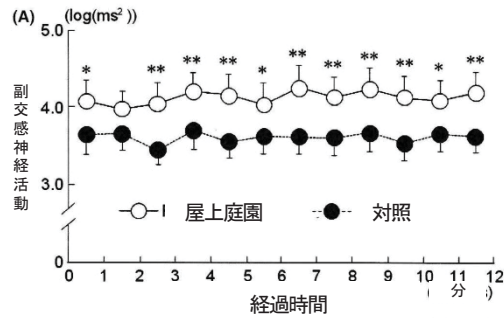


図 2：屋上庭園座観中における副交感神経活動(HRV HF)と交感神経活動(LF/(LF+HF))の変化

屋上庭園という限られた自然環境ではありますが、要介護高齢者は、生理的にリラックスし、ストレスから解放された状態となることを明らかにしました。

また、主観的リラックス効果も検証されています。これは、いわゆる「うつ病」の診断基準である「抑うつ気分」、「興味あるいは喜びの喪失」といった2つの感情を含む、5つの感情について主観評価を行ってもらい、屋上庭園の心理的効果を調べたものです。

ここでも、要介護高齢女性 30 名（平均年齢 81.2 歳）を A と B の 2 班に分け、A 班は 1 日目に屋上庭園で、2 日目には対象において、また B 班はその逆の順序で、5 つの感情の強さを聴取しま

した。その結果、屋上庭園のグループでは、すべての感情において、有意な向上が認められました。^(*) つまり、屋上庭園は、要介護高齢女性患者の感情を、「気分が明るく希望があり」、「物事に興味や喜びを感じ」、「笑顔になりそうに楽しく」、「ゆったり心の広い許せる気分」で、「安心」な状態に変化させていたのです。

なお、松永さんのこれまでの研究成果は、専門誌等に発表されています。



(*) : Matsunaga, K., Park, B-J., Kobayashi, H. and Miyazaki, Y. “Physiologically Relaxing Effect of a Hospital Rooftop Forest on Elderly Women Requiring Care”, *Journal of the American Geriatrics Society*, 2011, Vol. 59, pp. 2162-2163

(*) : 松永慶子、朴範鎮、宮崎良文 「病院屋上森林が要介護高齢女性患者に及ぼす主観的リラックス効果—簡易感情尺度を用いて—」 *日本衛生学雑誌*, 2011 Vol. 66, pp. 657-662

4

こんなウンチク、いかがでしょう 建物緑化の豆知識

あなたが整備を決断した、あるいは検討している建物屋上や壁面の緑化とはそもそものようなものでしょうか？この章では、建物緑化にまつわる知識や情報のアレコレを紹介します。建物緑化に親しむきっかけ、会話の端緒にいただければ幸いです。

1 日本初の屋上庭園はどこ？

明治40年（1907年）、神戸オリエンタルホテル（兵庫県神戸市）に作られた屋上庭園が、最初という説があります。明治3年（1870年）開業の同ホテルは、日本を訪れる外国人旅行者に評判が高かったということですが、この年、ドイツ人建築家の設計した新たな4階建ての建物へと生まれかわりました。大阪府立大学山田宏之教授によると、このときに整形の植栽地をもつ屋上庭園が作られたとみられ、絵はがきに残っているそうです。この屋上庭園は、その後の屋上部への増築によって姿を消してしまいました。

2 しばむね 芝棟ってなんですか？

屋根に植物を生やすことは、昔から行われていました。茅葺き屋根に関する一つの形式で、屋根の上の棟の部分に、植物（草本類）を繁茂させたものです。屋根は下の方から葺いていきますから、一番上まで来ると何らかの形で雨が入らないようにしなければなりません。そこに土を置き、草を生やすことで雨漏り防止としたのが芝棟です。今でも、古い茅葺き民家などで目にすることができ、また同様の形式は、ヨーロッパなどにもあるそうです。

3 80年経った屋上庭園 あさくらちょうそかん 朝倉彫塑館

国の名勝に指定された屋上庭園があります。東京都台東区谷中の彫塑家朝倉文夫のアトリエ兼住宅で、昭和10年（1935年）に建てられました。和風の住居と洋風のアトリエが融合したもので、大きな空間構成から照明器具や細かな造作にまで彫塑家朝倉が心を砕いて、作り上げた空間です。アトリエ部分の屋上に、当時作られた屋上庭園が今も残っています。建物は国の有形文化財、敷地全体が国の名勝の指定を受けており、現在は台東区美術館となっています。

4 二酸化炭素 (CO₂) の削減効果は期待できますか？

屋上緑化は建物への熱流入を抑えることから省エネルギー効果があり、それが温室効果ガスである CO₂ の排出削減に結びついています。また、植物の光合成によって大気中の CO₂ が直接植物体に吸収固定され、さらに枝や葉などの植物体が土壌に還元されることで、土壌にも CO₂ が固定されます。アクロス福岡（福岡県福岡市）では、1995 年の竣工から 15 年間に固定された CO₂ 量が調べられました。実際に樹木の生長量を 1 本 1 本測定して算出し、樹木に約 21 トン、土壌に約 36 トンの CO₂ が固定されたことが分かりました。

5 日本で一番大きな屋上緑化/屋上庭園は？

ザ・プリンスパークタワー東京（東京都港区）の屋上が最も緑化した面積が大きいものの一つでしょう。ホテルの宴会場やフィットネス施設、駐車場などの施設の屋上に芝生が広がり、サクラやバラなどの木々も植栽されています。東京タワーを間近に眺められる緑地として、一般にも公開されています。その緑化面積は、約 18,000 m²といわれています。

6 日本で一番高いところにある屋上庭園は？

平成 26 年（2014 年）に竣工したあべのハルカス（大阪市阿倍野区）は、現在最も高いビル（地上高 300m、60 階建て）です。その 58~60 階は、フロア中央が 3 層吹き抜けの展望台となっており、58 階（278m）にはウッドデッキが敷かれ、周囲に植栽が配されています。外気に触れる緑化空間ではありますが、屋上庭園というイメージとは少し違うかもしれません。なお、16 階のミュージアムフロアにも屋上庭園が作られています。

7 アートとしての壁面緑化

アート作品として植栽された壁面を作り出している人物が、フランスの植物学者でありアーティストであるパトリック・ブラン氏です。日本でも、金沢 21 世紀美術館に、「緑の橋」と名付けられた緑化壁面が作品として展示されています。なお、山陽新幹線新山口駅に平成 27 年（2015 年）整備された自由通路の壁面緑化は、同氏のデザインによるものです。使用された植物は、山口市内に自生する植物から 140 種がブラン氏により選定され、栽培された後、地元小学生やボランティアなどの参加を得て、壁面に植え付けられました。

8 屋上緑化と壁面緑化は、どのくらいある？

日本全体で、屋上緑化と壁面緑化がどのくらい作り出されているのでしょうか。全国の建設会社などの協力を得て、国土交通省が毎年調べています。この調査結果によると、平成 27 年中に、屋上緑化空間は日本全国で合計約 17.6ha（東京ドーム約 3.7 個分）、壁面緑化空間は約

5ha（東京ドーム約1.2個分）が作り出されています。また、平成12年以降、平成27年までの16年間では、屋上緑化空間は約433.8ha、壁面緑化空間は約74.0ha作り出されてきました。

9 海外でエコルーフ、グリーンルーフと呼ばれる屋上緑化

屋根や屋上の緑化に関しては、雨水を一時貯留して流下を遅らせたり、流出量を抑制したりする効果も期待されています。草本類を利用することにより、大きな整備費用をかけず、粗放的な管理で十分なうえ、都市の集中豪雨時等における下水道システムへの負担も軽減します。ドイツやアメリカなど海外においても注目され、整備も行われており、エコルーフ、あるいはグリーンルーフと呼ばれています。

5

参考資料

【紹介事例一覧】

第2章で紹介した事例は、次の通りです。

		施設名称	所在地	竣工年
住宅／集合住宅				
1	住01	The Center Tokyo オーバルガーデン	東京都新宿区	平成19年
2	住02	深大寺レジデンス武蔵野テラス	東京都調布市	平成20年
3	住03	TMIビル	神奈川県横浜市	平成19年
4	住04	プラウド大井ゼームス坂	東京都品川区	平成24年
5	住05	御影草屋根の家	兵庫県神戸市	平成10年
6	住06	Sg/Secret Garden	群馬県前橋市	平成20年
商業施設／娯楽施設				
7	商01	二子玉川ライズ	東京都世田谷区	平成27年
8	商02	東急ブラザ表参道原宿おもはらの森	東京都渋谷区	平成24年
9	商03	コピス吉祥寺吉祥空園 sora	東京都武蔵野市	平成18年
10	商04	グランツリー武蔵小杉	神奈川県川崎市	平成26年
11	商05	ルミネ北千住	東京都足立区	平成18年
12	商06	西武池袋本店	東京都豊島区	平成27年
13	商07	京都銀行歌島橋支店	大阪府大阪市	平成25年
事務所ビル				
14	勤01	丸の内パークビル・三菱一号館／一号館広場	東京都千代田区	平成21年
15	勤02	新目黒東急ビル	東京都品川区	平成24年
16	勤03	ガーデンシティ品川御殿山	東京都品川区	平成23年
17	勤04	豊島屋ビル	東京都千代田区	平成18年
18	勤05	日本ヒューレット・パッカード本社ビル	東京都江東区	平成23年
19	勤06	ローム京都駅前ビル	京都府京都市	平成22年
医療施設／福祉施設				
20	療01	医療法人仁医会あいちリハビリテーション病院	愛知県西尾市	平成22年
21	療02	医療法人清慈会鈴木病院	愛知県豊田市	平成25年
22	療03	医療法人いつき会メディカルいつき	愛知県名古屋	平成24年
23	療04	医療法人徳松会老人保健施設エルダリーガーデン	徳島県徳島市	平成20年
24	療05	湘南ふれあいの園シニアレジデンス町田	東京都町田市	平成20年
教育施設				
25	学01	灘中学校・高等学校	兵庫県神戸市	平成25年
26	学02	実践学園中学・高等学校	東京都中野区	平成21年
27	学03	関西大学総合学生会館メディアパーク凜風館	大阪府吹田市	平成18年
28	学04	東京農業大学アカデミアセンター	東京都世田谷区	平成25年
29	学05	六本木ヒルズハリウッドプラザ／学校法人メイ・ウシヤマ学園	東京都港区	平成15年

【参考図書】

建物を緑化することに興味を湧いた建物オーナー／施主の方々、建物の緑化担当者や担当部署の方々にお勧めする、厳選3冊です。

1. 新版 知っておきたい屋上緑化のQ&A

(財)都市緑化機構 特殊緑化共同研究会 編 鹿島出版会 2012

2. 新版 知っておきたい壁面緑化のQ&A

(財)都市緑化機構 特殊緑化共同研究会 編 鹿島出版会 2012

3. 建築緑化入門

日経アーキテクチュア 編 日経BP社 2009

緑による 建物の魅力アップガイド

平成 28 年(2016 年)12 月 発行

国土交通省 都市局 公園緑地・景観課
〒100-8918 東京都千代田区霞ヶ関 2-1-3
TEL:03-5253-8420 FAX:03-5253-1593

紹介事例に関するお問い合わせは(公財)都市緑化機構へ
TEL:03-5216-7191 FAX:03-5216-7195